

(再掲) 賛助会員向けアンケート調査概要

0

PHR普及推進協議会の賛助会員向けにアンケート調査を実施（9/13～9/24）
期限までに28社中15社より回答を受領

アンケート内容

目的

- プレアンケートとして誰に何をヒアリングするかを明確化
- PHRに関する既存規格の洗い出し

依頼文書

PHR普及推進協議会 賛助会員 各位

令和3年9月吉日

PHR普及推進協議会
PHR サービスガイドライン策定特別委員会
委員長（代表理事） 石見 拓

「PHR関連サービスの概要及び各種データの連携に関する調査」へのご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

PHR普及推進協議会では、PHR関連サービスにおいて、データ連携を確保すべき情報項目とそのデータ流通規格を定めるべく、既存サービスの概要及び各種データの連携の実態を広く把握するため、アンケート調査を行うことといたしました。

つきましては、お忙しい中恐縮ではございますが、本調査にご協力賜りたく、別添調査回答書へのご回答のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

- 実施内容： 別添調査回答書(Google フォーム)によるアンケート調査
- 対象者： 本協議会の賛助会員の皆様
- 回答期限： 令和3年9月24日(金)
- 回答要領： 別添のアンケート項目一覧(Word)および調査回答書(Google フォーム)をご参照ください。
- 提出先： jimikyoku@phr.or.jp
- 取り扱い： ご回答いただいた内容については、皆様の事業活動に支障が生じないよう、別添のPHR サービスガイドライン策定特別委員会および作業班のみが取り扱うこととします。また結果については創社名を伏せ、回答内容を一般化して公表する予定です。

お問合せ先 PHR サービスガイドライン策定特別委員会
作業班① 班長 山本 景一
メールアドレス: jimikyoku@phr.or.jp

Googleフォームにて収集

PHR関連サービスの概要及び各種データの連携に関する調査 調査回答票

貴社で回答を取りまとめいただき、一社につき一度の回答をお願いいたします。

[Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細](#)

*必須

貴社名 *

回答を入力

〆.ご担当者について
本アンケートの窓口、連絡先とさせていただきます。

お名前 *

回答を入力

部署名 *

賛助会員一覧(28社)

- 株式会社iCARE
- ・ アストラゼネカ株式会社
- ・ イノールズAI株式会社
- ・ 株式会社エムティーアイ
- ・ オムロンヘルスケア株式会社
- ・ 株式会社オールアバウト
- ・ キューサイ株式会社
- ・ 公益財団法人 京都高度技術研究所
- ・ KDDI株式会社
- ・ 沢井製薬株式会社
- ・ 株式会社三和製作所
- ・ シミックホールディングス株式会社
- ・ 株式会社JMDC
- ・ 株式会社JTB
- ・ ソフトバンク株式会社

- ・ 田辺三菱製薬株式会社
- ・ TIS株式会社
- ・ テルモ株式会社
- ・ 東和薬品株式会社
- ・ 日本マイクロソフト株式会社
- ・ PHC株式会社
- ・ 株式会社バリューHR
- ・ 株式会社日立コンサルティング
- ・ 株式会社ベネフィット・ワン
- ・ 株式会社ヘルステック研究所
- ・ メドピア株式会社
- ・ 株式会社ユーズテック
- ・ 株式会社リーバー

(50音順)

(2021年9月時点)

※赤字の企業より回答を受領

○ポータビリティ／情報の発生ソース／マイナポータル

- ・情報発生ソース（病院や検査機関）側での標準化を望む声も多いが、それをPHR側で議論してもすぐには難しい。
- ・マイナポータルによるデータをアウトプットする際の方式によってPHRサービス間のフォーマット標準化を期待している企業も多い。
- ・同じ項目であっても、医療機関と家庭での計測では意味が異なる。手入力か否かも含め付加情報をどこまで入れるか整理が必要。
- ・データ提供先によって求められる付加情報が異なるため、どの提供先のどのフォーマットから統一するかをまず決めていくことで議論がまとまるのではないか。
- ・「ステップ1としては本人の健康増進/医療目的のフォーマット統一、次のステップで研究目的に拡張」というように、目的を分けて工程表を上げておくのが良いのではないか。
- ・競争上の創意工夫の余地として、画一的な標準化できない項目もある。中長期的な保管を前提とするデータを優先的に議論するべきではないか。

⇒**本人の健康増進/医療を目的として、PHRサービスから中長期的な保管を前提としたデータをアウトプットする際の方式の標準化をまず目指す。**

○目指す世界観について

- ・複数のPHRサービス／アプリを並行して使うことについて想定している世界観を絵として示すべきではないか。
- ⇒**並列的に使用されるならば、基本的なデータを保有するコアPHRとサービスに依存してデータを保有&アクセスする周辺PHR事業者に分かれるのではないか。**

○共通的なルール作り

- ・ガイドラインの中で、利用規約に記載する項目としての整理や標準利用規約を示す必要があるのではないか。
- ⇒**賛助会員各社のサービスの利用規約のライブラリーを作ってはどうか。**
- ・コロナウィルスの健康観察票は日本中でも使われたものなので、別途標準化を検討すべきではないか。

賛助会員向けヒアリング調査概要

2

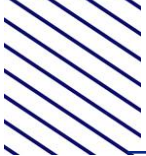
アンケート調査結果をもとに、9社に対して詳細ヒアリングを実施。（10/21～12/23）
既存PHRサービスの提供形態や企業視点でのPHRの在り方を調査した。

ヒアリング内容

- **PHRサービスの提供形態**
 - ・サービス提供主体
 - ・データ管理主体
- **PHRサービスに利用しているデータ**
 - ・目的（個人の健康/研究等）
 - ・項目
 - ・取得頻度/粒度
 - ・付加情報
- **流通すべき（と考える）データ**
 - ・項目
 - ・取得頻度/粒度
 - ・付加情報
- **データポータビリティに対する考え**
 - ・懸念
 - ・促進アイデア
- **その他、アンケートにもとづく深掘**

実施スケジュール

- ・ 10/21：テルモ株式会社
- ・ 10/22：日本マイクロソフト株式会社
- ・ 10/25：株式会社エムティーアイ
- ・ 10/26：株式会社ヘルステック研究所
- ・ 10/27：オムロンヘルスケア株式会社
- ・ 10/29：PHC株式会社
- ・ 10/29：シミックホールディングス株式会社
- ・ 10/29：株式会社ユーズテック
- ・ 12/23：株式会社バリューHR



ヒアリング結果：PHRサービスに利用しているデータ

- ✓ 各社PHRサービスのデータ項目／取得頻度・粒度／付加情報を洗い出した結果は以下の通り。
- ✓ データ項目は標準化候補として抜け漏れの確認に活用する。
- ✓ 取得頻度・粒度、付加情報はともにパターンが少なく、限定的であることがわかった。

データ項目		取得頻度・粒度
<div>➤ 健診/検診項目</div> <div>➤ レセプト</div> <div>➤ 予防接種記録</div> <div>➤ アレルギー歴</div> <div>➤ 血圧</div> <div>➤ 脈拍</div> <div>➤ 歩数</div> <div>➤ 移動距離</div> <div>➤ 食事</div> <div>➤ 睡眠時間（入眠時刻、起床時刻）</div> <div>➤ 体動レベル</div> <div>➤ 体重</div> <div>➤ 身長</div> <div>➤ 体脂肪率</div> <div>➤ 基礎代謝</div> <div>➤ 骨格筋率</div> <div>➤ BMI</div> <div>➤ 体年齢</div>		<div>➤ イベント単位（手入力、アプリ/デバイス連携、健診機関/薬局との連携等） ⇒発生するたびにレコードが増える</div> <div>➤ 日単位 ⇒歩数など、日単位でレコードが増える</div>
付加情報		
		<div>➤ 入力手段（手入力or自動連携、測定デバイス名など）</div>

ヒアリング結果：データポータビリティに対する考え

- ✓ アンケートにおいてデータポータビリティに関心のありそうな企業にヒアリングを実施したこともあり、貴重な意見を多数いただくことができた。次スライドにて今後の活動へ反映するための考察を実施。

データポータビリティの実現に向けて

- ユーザ視点でサービスの目的に合わせた必要最小限のデータだけ流通できればよい。データの取得頻度・粒度もユーザが価値を感じるものであるべき。
- データ連携は、ユーザから見て違和感のない、常識的な感覚の範囲で行うのがよい。同意を取っていても、本人にその"つもりがない"場合に訴訟になるリスクもある。
- 網羅性を担保できるデータを流通させるべき。データが欠けていると不適切なアドバイスになってしまう。（例：予防接種歴が一部記録されていないにも関わらずアドバイスをすると誤摂取になりうる）
- データの信頼性が大事。利用者を混乱させたり、不利益を与えないこと。
- アプリ間で個人が移行する場合のポータビリティと他の方に見せるためのポータビリティでは視点が違う。
- 測定機種名は最低限必要。またデータを使うときに信頼性を判断できるようにするため、**自動連携なのか手入力なのか分かる情報**も必要。
- 自社サービスで取れない情報、特に血糖値や食事データなどは流通ニーズがある。
- 大きな資本の会社がユーザを囲い込んでオープンにされない(患者さんのデータ活用を阻害する)ことが起きないかが懸念。社会として困る。
- 出す側も受け入れ側もフォーマットに対応していることを伝えれば双方のコミュニケーションがやりやすくなる。
- データがつながることで、**新しい価値が得られるということが、現実的な事として見えてくると良い**。論文ベースなどで、具体的なエビデンスを示していただけると嬉しい。

その他のご意見

- 3省ガイドラインの理解浸透と適応が必要。
- **ルールが決まった時に、サービス提供各社の、標準化対応への足並みが揃うのかが不安**。自社だけが対応している状況だと、データが出ていく一方になるリスクがある。
- **PHRを利用する事によるメリットを出せるような環境が欲しい**。ポイント制（目先の利益提供）は、あまり良くないと考えている。本人が本人の健康のために、本当に大切だと感じられるような販促が重要。
- **生活者への教育（PHRデータ活用に対する教育）をやってほしい**。
- 個人手打ちの項目や他の機関から提供されたデータの正確性担保は難しい。項目とデータの信頼度は別。PHRサービス事業者としてどういうデータがあれば正確性を担保できるかなど検討が必要。**都合の悪いデータを見せたがらないことも想定されるため、ユーザの教育や医師への啓蒙等、データを見せる文化作りが必要**。広告代理店とのコラボでデータ提供の重要性を伝えることも一案。
- デバイスとシステム間のセキュリティという概念が現状はない、今後その部分のデータインテグリティの議論がされるとなるとメーカーとしては重たい話になってくる。
- **PHR観点でのサイバーセキュリティガイドラインをつくるのはどうか**。
- **利用規約の雛形の提供があると望ましい**。利用規約としては「ありがちな内容」+「サービス特有の内容」の**はず**。「ありがちな内容」については雛形として、皆が知っている状態にできると良い。ユーザは「サービス特有の内容」だけを確認して同意を取ればよくなる。

ヒアリング結果を受けた考察と提言

○流通させるべきデータ

- ・**ユーザ視点でサービスの目的に合わせた必要最小限のデータだけ流通できればよい。**
データ連携も、ユーザから見て違和感のない、常識的な感覚の範囲で行うべき。
- ・また企業の創意工夫を認めるための視点も含めて考える必要がある。

○サイバーセキュリティ／PHRを利用する文化作り

- ・データの完全性の担保が今後の課題となる。デバイスとシステムの問題と、都合の悪いデータを見せたくないという文化の問題がある。前者はデータ連携の精度やサイバーセキュリティ、後者はユーザへの教育が必要。
- ⇒**PHR観点でのサイバーセキュリティについて、3省ガイドラインを参考に協議会で検討するのはどうか。**
- ⇒**健康を目的としてPHRを利用する文化を作るための、ユーザ教育や医師への啓発を協議会で進めるのはどうか。**

○PHRサービスのメリット明確化

- ・PHRを利用する文化を作るためにも、具体的なエビデンスを示してメリットの理解浸透を図る必要がある。
- ・PHRサービス間のデータ連携で新しい価値が生まれるということも論文ベースで示せるのがベスト。

○PHR事業者が持つべき機能

- ・大きな資本の会社がデータを囲い込み、患者のデータ活用を阻害することがないように、**PHR事業者が持つべき機能についても国に提言を行うのはどうか。**

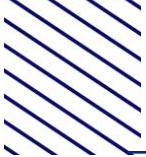
○「民間事業者のPHRサービスに関わるガイドライン作成に当たっての提言」の具体化

- ・提言は、主にサービス乗り換えを目的としたデータポータビリティを想定していたが、**サービスの併用も強調する形で具体化すべきではないか。**



Appendix

各社のサービス概要



ヒアリング結果：エムティーアイ

サービス名	母子モ	ルナルナ	CARADA
概要	母子手帳アプリ（胎児～小学校入学まで）	生理管理アプリ（生理開始～妊娠）	健診機関の健診結果返却、健康経営、オンライン診療、電子薬歴、お薬手帳
提供形態	サービス提供主体・データ管理主体ともに子会社の母子モ株式会社	サービス提供主体・データ管理主体ともにエムティーアイ	
データ	個人の健康を目的として、予防接種記録/妊婦・乳幼児健診記録/妊婦体重記録/子どもの身長・体重記録/子どもの発達記録を取得。取得頻度はユーザの入力単位。	個人の健康/研究を目的として、生理日/基礎体温/体調/ピル等の処方記録/服薬記録/血圧/歩数を取得。取得頻度はユーザの入力単位。	個人の健康/健康経営/業務効率化を目的として、歩数/食事/睡眠/体重/体温/血圧/血糖値/腹囲/検査値/体調/忙しさ/気分/健診記録/処方記録/服薬記録を取得。取得頻度はユーザの入力単位とアプリ起動時のスマホOS連携。

ヒアリング結果：PHC

8

サービス名	WellsPort Navi	ヘルスケア手帳サービス
概要	インセンティブプログラムによる従業員の健康管理	電子お薬手帳
提供形態	BtoBtoC データは健保から委託を受けPHCが管理	BtoC BtoB（薬局） データはPHCが管理
データ	インセンティブプログラムによる従業員の健康管理を目的として、バイタルデータ（体温・体重・血圧・脈拍・歩数）、食事、健診レセプトを取得。食事は選択制or自身の入力から登録。取得頻度はユーザの入力単位。	個人の健康増進を目的として、歩数・血圧・血糖・お薬のデータ、処方箋の画像を取得。取得頻度はユーザの入力単位とアプリ起動時のスマホOS連携。 将来的には処方だけでなく服用管理も必要と考える。

ヒアリング結果：オムロンヘルスケア

9

サービス名	OMRON connect
概要	連携アプリやサービスにバイタルデータを提供)
提供形態	BtoC BtoB データ管理はオムロンだが、個人やサービス提供者もコントロール可能
データ	連携アプリやサービスにバイタルデータを提供することを目的として、血圧、脈拍、姿勢、室温、体重、体脂肪率、基礎代謝、骨格筋率、BMI、体年齢、内臓脂肪レベル、歩数、距離、基礎体温、睡眠開始時刻、入眠時刻、起床時刻、睡眠時間、体動レベルなどを取得。取得頻度はユーザの入力単位。

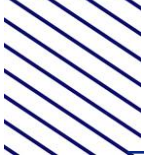
ヒアリング結果：シミックホールディングス

10

サービス名	harmo電子お薬手帳	harmoワクチンケア
概要	電子お薬手帳	ワクチン(コロナワクチン・予防接種の情報提供・管理)ケア
提供形態	BtoBtoC：医療機関や自治体にサービスを提供 BtoC データ管理はharmo株式会社（シミックグループの100%子会社）	BtoBtoC：医療機関や自治体にサービスを提供 BtoC データ管理はharmo株式会社（シミックグループの100%子会社）
データ	調剤情報・アレルギー歴を取得。食事は選択制or自身の入力から登録。取得頻度はユーザの入力単位。	ワクチン接種記録（接種日・接種場所など）を取得。取得頻度はユーザの入力単位。

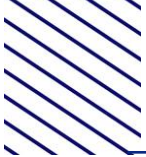
サービス名	メディセーフデータシェア
概要	主に血糖管理をしている糖尿病患者の健康管理 一般ユーザと病院をつなぐ（在宅データが病院の先生でも確認できる）
提供形態	<ul style="list-style-type: none">• BtoC• BtoB（病院） テルモがデータを管理
データ	主に血糖管理をしている糖尿病患者の健康管理を目的に、血糖値、血圧、体温、SpO2を自動取得。手入力も可。体重、歩数、服薬は手入力で取得。取得頻度はユーザの入力単位。血糖値は1日4回が標準。CGM経由の場合は5分毎（手動同期）。1日複数回取得が多い。付加情報としてタイムスタンプ、機器情報がある。

サービス名	健康日記	らくらく健康観察
概要	日常の健康増進（保管、閲覧に特化）	個人、団体での健康観察（効率よく健康観察をする）
提供形態	BtoCのサービス。無料でPHRの記録、閲覧に利用データは個人が管理	BtoBtoC 学校、病院向けの健康観察サービス 学校の対面授業を始める前に、学生が自宅で健康観察してから、学校に登校できるようにする データは個人が管理
データ	電子お薬手帳、健診結果、体温、日々の症状、歩数を取得。取得頻度は日単位。 入力手段の情報も付加している。	体温、日々の症状を取得。取得頻度は日単位。



ヒアリング結果：ユーステック

サービス名	SmartPHR
概要	企業向け体温管理システム。サーモメータに接続し自動入力。プラットフォーム「SmartPHR」にデータが蓄積され管理。平熱・微熱・発熱を判断できるような研究を実施。
提供形態	BtoBtoC サービス提供企業がデータを管理
データ	体温を取得。取得頻度はユーザの入力単位。



ヒアリング結果：日本マイクロソフト

サービス名	Microsoft Azure
概要	クラウド提供
提供形態	BtoBtoC サービス提供企業がデータを管理
データ	PFerとしてデータのレイアウトまで踏み込まないようにしている。

サービス名	バリューカフェテリアシステム
概要	保健事業（主に健康診断）に関するウェブサービスを提供。
提供形態	個人（株主）向け：BtoC（健診予約、健診結果の管理） 企業向け：BtoB、BtoBtoC（企業の法定遵守としての定期健診結果の管理、個人向けマイページ） 健保向け：BtoB、BtoBtoC（保健事業としての特定健診の実施管理、個人向けマイページ）
データ	法定健診・生活習慣病健診・人間ドック・特殊健診等の項目と歩数を取得。 歩数についてはスマホ経由かウェアラブルデバイス経由かがわかるようになっている。